

平成30年度内部モニタリング結果を受けての
令和元年度における対応について

豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会における平成30年度の内部モニタリング評価結果を受け、令和元年度に行うこととしていた各対応について、下記のとおり実施いたしましたので、報告いたします。

リサイクルプラザ			
	令和元年度における対応	具体的取り組み内容	取り組み結果（効果）
資源化について	<ul style="list-style-type: none"> 台風や地震により、分別が困難な片付けごみが多量に発生したことが資源化率の低下に繋がったが、不燃ごみの搬入物検査を充実させ、両市と情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 両市（豊中市、伊丹市）の不燃ごみの搬入物検査を計7回実施し、内容物の組成分析や適合率等の調査を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 検査結果については概ね適正であったが、可燃物であるプラスチック製品や禁忌品の混入も散見されたため、引き続き、両市とともに市民啓発を推進していく。
	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック製容器包装には充電式電池や、これらを内蔵する製品の混入が見受けられる。そのため除去しきれなかったこれら品目の混入により、搬出先の施設で発火の事象が発生したことについても、両市と情報共有し、市民啓発に努めるとともに、手選別作業においても注意するよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 両市（豊中市、伊丹市）のプラスチック製容器包装の搬入物検査を計9回実施するとともに手選別作業において注意するよう指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 検査報告をもって両市と協働して拠点回収の利用について等、市民啓発を推進する。また手選別作業においても引き続き注意するよう指導を行った。
事故・故障について	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック製容器包装に混入する注射針の状況については、両市と情報共有するとともに、施設見学者への説明や両市のイベント参加の際にも市民啓発を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 両市（豊中市、伊丹市）のプラスチック製容器包装の搬入物検査を計9回実施し、禁忌品等（特に注射針）の混入について検証を行った。施設見学者への説明や両市のイベント参加の際にも市民啓発を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 検査報告をもって両市とともに、引き続き市民啓発を行う。

リサイクルプラザ			
	令和元年度における対応	具体的取り組み内容	取り組み結果（効果）
	<ul style="list-style-type: none"> 充電式電池の破碎処理が発火を招くことから、両市収集部局へ発火事象が多発するこれら製品の別降ろしについて協力を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 両市収集部局へ、破碎処理工程において発火事象が多発する充電式電池類の別降ろしについて協力を求めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 両市収集部局へ充電式電池類の別降ろしについて協力を求めた結果、866 個の充電式電池類を別回収することができ、火災に対する初期対応と施設の損害低減につながった。
	<ul style="list-style-type: none"> 30 年度実施した消火設備増強工事の効果を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 火災に対する初期対応と施設の損害低減に向け、消火設備増強工事の効果を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 火災検知器や消火散水ノズル等の増強工事の結果、火災の影響により生じる機器停止時間については、1 件当たり前年度の約 45 分から約 14 分へ、約 31 分の低減につながった。
環境学習・啓発について	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学者の確保にはリピーター対策が重要であり、来場者に対して新たな提案が行えるような企画が必要と考える。 展望フロア一般開放デーに併せて、市民講座や家具のリユースコーナーを開催するとともに、新たに企画した食器リユースコーナーを実施していく。 緑地帯やひろばを活用するなど、来場者が再び訪れたいと思う取り組みの提案を指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学者の確保のため、展望フロア一般開放デーや両市の各種イベント等に併せ、市民講座を計 11 回行った。（参加者：計 206 名） 展望フロア一般開放デーに併せて市民講座を行い、家具のリユースコーナーについては計 14 回・96 点の出品を行った。併せて新たに企画した食器リユースコーナーでは、約 140kg の陶磁器の回収を行った。 両市関係団体と緑地整備に関する意見交換会を実施し、11 月にごみぶくろうの丘（苗木スペース）に両市の小学校数（58 校）の植樹を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防のため、年度末は見学・視察者数が減少したものの、それまでは昨年度を上回る見学・視察者数であった。

平成30年度内部モニタリング結果を受けての
令和元年度における対応について

豊中市伊丹市クリーンランド内部評価委員会における平成30年度の内部モニタリング評価結果を受け、令和元年度に行うこととしていた各対応について、下記のとおり実施いたしましたので、報告いたします。

ごみ焼却施設			
	令和元年度における対応	具体的取り組み内容	取り組み結果(効果)
ごみ焼却施設について	<ul style="list-style-type: none"> 焼却量については、概ね計画通り焼却できており、引き続き安定的な運転管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 焼却するごみの質に合わせた設定変更を行うことにより安定的な運転を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 焼却量については、概ね計画通りに焼却でき大きなトラブルもなかった。
	<ul style="list-style-type: none"> 所内電力の削減対策については、検証を行いながら引き続き実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様に所内電力の削減対策を行い、運転状況等による削減効果の検証を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 所内電力使用量は、焼却炉の運転状況等により増減する月があったものの、年間をとおして昨年度より使用量の削減はできている。
	<ul style="list-style-type: none"> 両市に対し一層のごみ減量施策を求めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 両市との協働による搬入物検査を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 搬入物検査の結果を基に、排出元に適正処理と排出量削減の啓発を実施した。
環境について	<ul style="list-style-type: none"> 排ガス・排水の全ての項目において、引続き年間を通して基準値を満たせるよう測定値の推移を確認し、適正な運転管理・運転に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 排ガス、排水の各測定値については、項目ごとのデータ確認と推移確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 排ガス、排水のすべての項目において基準値を満たす結果となり、大きな変化もなく推移していた。
事故・故障について	<ul style="list-style-type: none"> この間発生した公務災害の対策等の再確認を行い、類似災害を含めた再発防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各作業前にはミーティングを行い、作業員全員で安全確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害は年度内に3件発生した。作業前ミーティングに加えて、危険予知活動の実施を再度全職員に周知し、次年度の公務災害ゼロをめざす。
	<ul style="list-style-type: none"> 日常点検や修繕などからなるデータを基に各設備機器の予防保全に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常点検や修繕などからなるデータを基に、各機器の保守点検整備や定期補修工事を行い、性能維持を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 停止に至るような故障はなかった。

ごみ焼却施設			
	令和元年度における対応	具体的取り組み内容	取り組み結果（効果）
資源化について	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の実績や蓄積したデータを踏まえ、年間の運転計画をより安定的、効率的な施設稼働ができるよう調整を行い、高効率で安定した発電量も確保できるよう取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去3年間のデータを基本とした年間の運転計画を作成した。また、日々変化するごみピットの堆積量と焼却量から月ごとに運転計画の調整を行い、発電量も確保できる運転計画の作成に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去のデータを基にしたごみの堆積量と発電量を考慮した運転計画の作成及び運転を行い高効率で安定した発電量を確保することができた。